

これからの大学教育と人材育成 いま、滋賀大学に求められること

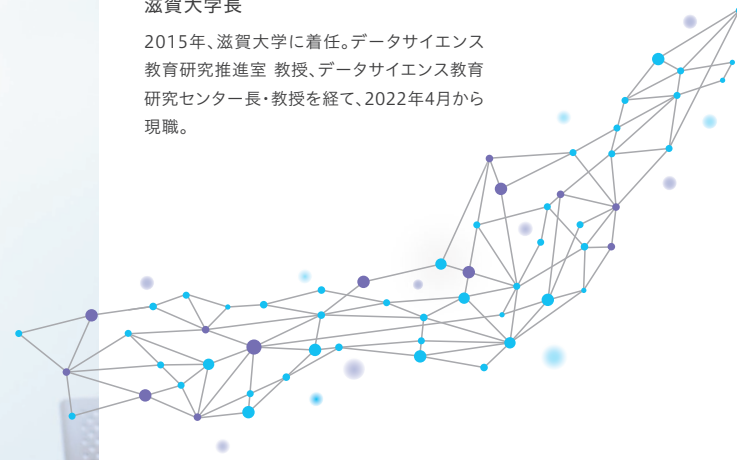
社会情勢の変化に加えて、コロナ禍という想定外の困難もあり、大学教育と人材教育への社会的要請はいつそう強くなっています。令和の新時代から、「新・滋賀大学構想—未来創生大学『滋賀大学』へ」を掲げている滋賀大学。そこで今年4月に学長に就任した竹村彰通教授、学生、企業出身者に、それぞれの立場から滋賀大学への期待、要望を語り合っていました。

※新型コロナウイルス感染対策に配慮し実施しました。



竹村 彰通 教授
滋賀大学長

2015年、滋賀大学に着任。データサイエンス教育研究推進室 教授、データサイエンス教育研究センター長・教授を経て、2022年4月から現職。



一般教養を改革、実践 社会での適応力を養う

竹村 「未来創生大学『滋賀大学』」※1の新構想は、社会の急速な変化に対して、総合的かつ複合的な課題解決の必要性から策定しました。昨今の社会課題は、単一の知見や学問領域からのアプローチでは解決が困難になっています。滋賀大学は複雑な課題への適応力と解決力、新たな価値の発見と創造力、より豊かな人間力を併せ持った、未来を創生する人材を育てる大学教育を実現していきます。具体的には、教育学部、経済学部、データサイエンス学部という3学部共通の一般教養科目を「未来創生リベラルアーツ・滋賀大モデル」※2(以下、未来創生リベラルアーツ)として改革、実践していきます。新構想の要素の一つが「データサイエンス教育」です。Society 5.0※3を

基軸とした超スマート社会への進化はめざましく、あらゆる領域でデータサイエンスリテラシーを備えた人材が求められています。本学では日本初のデータサイエンス学部を設置し、昨年3月に1期生を社会へ送り出したのですが、求人数も就職率も非常に高く、優れた人材育成への要請はさらに高まっています。そのため、全学部の全学生がデータサイエンスリテラシーを身につけることをめざします。次に、未来創生リベラルアーツにおける「STEAM教育」※4です。本学が近年注力している「文理融合」を具現化した科目によって、先ほど述べたデータサイエンスリテラシーのほか、数理の知見と論理的思考力、広い視野での課題発見、解決力、多様化する人々、社会への理解、適応力を養うことを目的としています。

谷村 私は経済学部会計情報学科に所属

しています。講義で会計に関するデータを扱うことも多く、数理的な知識と思考力が必要であることは日々実感しています。**高槻** 私は教育学部で社会科教員をめざしています。理系科目には苦手意識もあって、入学当初は自分には数理や科学技術系の知識は必要ないのではと考えていたのですが、そうではないのですね。現在、児童生徒1人に1台の端末を配布して授業を行うGIGAスクール構想が進んでおり、当然、教員はICTを活用する知識や技術がなければ指導できません。今後は数理、科学技術系も学んでいきたいです。**竹村** 学生が「未来創生リベラルアーツ」の重要性を理解し、意欲的に取り組んでくれることは、学長としてはもちろんですが、教員としても喜ばしく、頼もしいですね。

のために 〔 座談会 〕

社会・企業が求める 価値を生み出せる人に

谷村 コロナ禍で、これまで経験のなかったオンライン講義を受けたりしたことで、社会ではいつ何が起こるかわからないと改めて思いました。そういった想定外のことに直面した時の柔軟性や適応力も卒業までに身につけたいです。**近藤** 確かにコロナ禍によって、世界中が多大な社会的、経済的打撃を受けました。一方でコロナ禍以前から課題となっていたICTの活用や働き方改革などが一気に加速、浸透したと思います。リモートワークはもちろん、業務効率化を目的として、人が行っていた事務処理や単純作業を機械やAIなどが取って代わるケースも増えてきています。**高槻** では、変化した社会や企業ではどのような人材が求められるのでしょうか。**近藤** そうですね。企業はこれまで以上に「人」を重視していると思います。機械やICTがいくら発達しても、それらを何にどう活用するかを考えるのは人ですから。採用においては、今も学歴フィルターといった問題が取りざたされていますが、「いい大学を出

ている学生なら大丈夫」といった旧態依然の採用方式や人材確保では、企業の進化は望めません。竹村学長がおっしゃった通り、データサイエンスは、業種を問わず企業活動のあらゆる面で必須となっており、急ピッチで導入、活用が進んでいます。私が長く在籍した保険業界でも、一定の専門業務に就く理系の学生の採用はありましたが、中心はやはり文系の学生。しかし、機械化、ICT化、データ活用が進むにつれ、社員の誰もが一定レベルの数理知識を持ち、使いこなすことが必要になってきました。また、リモートワークの普及により、採用する大学や学生のフィールドが広がったのではないのでしょうか。業務によっては出勤の必要がなく、全国各地、いや海外にいても仕事はできます。こういったことから、企業としては、高い専門性はもちろん、幅広い知識、能力を持ち合わせた人材、新しい価値を生み出せる個性ある人材を求めています。**竹村** 企業の採用や業務でのオンライン活用は、地理的・物理的制約を受けません。これは滋賀大学をはじめとする地方大学や、地方創生においてもチャンスが拡大したと捉えています。

※1
未来創生大学『滋賀大学』
3つの縦軸「データサイエンス・教育・経済の専門知」と、1つの横軸「未来創生リベラルアーツ・滋賀大モデル」を組み合わせ、Society 5.0時代(※)に新たな価値創造ができる人材育成を目指した大学構想。

※2
未来創生リベラルアーツ・滋賀大モデル
データサイエンスリテラシーとリベラルアーツ教育(ヒューマニティーズ、サイエンス、クリエイティブ・スタディーズ)を通して、社会の発展に創造的に参画する能力を養成する教育方針。

※3
Society 5.0
サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)の融合により、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会。

※4
STEAM教育
STEM(科学、テクノロジー、エンジニアリング、数学)という科学技術系分野に、Arts(人文、社会、芸術)の要素を組み込んだ総合的な教育のこと。



彦根キャンパス「滋賀大学大学院Future Class Room」

何ものにも捉われず 広い視野を持った人に

高槻 多様化という点で、グローバル化についてはどうでしょうか。というのも、私は学習塾でアルバイトをしているのですが、中学生から「英語を勉強して何になるのか」と聞かれたものの、うまく答えることができてなくて。

竹村 ICTなどによって世界の距離感がさらに縮まったこともあり、「未来創生大学『滋賀大学』」ではグローバル教育にも注力しています。これは私の考えですが、グローバル教育というと多文化、多人種の理解に重点が置かれますが、仕事をするうえでもコミュニケーションを図るうえでも、やはり「語学力」がなければ始まりません。

近藤 私はキャリアの大半、国際的なビジネスである再保険業務に従事し、出張も頻繁に行っていました。英語は授業だけでなく、日常生活でも意識して勉強しなければ、なかなか身につけません。ただ、言葉はあくまでもコミュニケーションのツール。知識や自分自身の考えを持つことこそが大切です。さまざまなことを学んで身につけ、英語というツールがあれば、自らの可能性や選択肢、活躍の場が広がるのではないのでしょうか。

高槻 英語というツールで世界が広がる。中学生に伝えたいと思います。

谷村 あいおいニッセイ同和損害保険で女性初の執行役員となった近藤さんに、女性の活躍や働き方についてお聞きしたいです。

近藤 私の在籍していた会社では女性活躍のための仕組みや環境が近年かなり整備されてきましたが、日本全体を見ると、女性活躍推進が遅れていることは否めま

せん。女性活躍はSDGs(持続可能な開発目標)に設定されている「ジェンダーの平等」の下の一つのターゲットであり、政府や企業が本腰を入れて取り組むべき課題です。

竹村 研究職における女性研究員も残念ながらまだ少ないのですが、滋賀大学の連携企業の研究拠点を訪問したところ、女性研究員が活躍し、信頼を寄せられていました。女性活躍をはじめ、男性の仕事、女性の仕事というアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み、偏見)の排除においても、本学の「未来創生リベラルアーツ」が貢献できると思います。

キャリアデザインを考え 視野を広げる機会を提供

竹村 これからの本学に期待することや要望を率直に聞かせてください。

高槻 大津キャンパスと彦根キャンパスの距離感を解消することはできないでしょうか。距離が縮まれば、共通科目の受講や課外活動、他学部との交流などがスムーズになるので、ありがたいです。

竹村 両キャンパスにおいては、オンラインの活用はもちろん、対面講義、交流においての環境整備を早急に進めていきます。

谷村 私は社会で活躍されている方から直接学べる機会が増えるとうれしいです。以前、起業家の方やベンチャー企業で活躍されている方が講師として登壇される「アントレプレナーシップ」※5を受講しました。その話から最先端の仕事内容、求められる人材などについてリアルに捉えることができ、学びへの意欲も向上したので。

竹村 終身雇用や、大手や一流企業に就職すれば安泰というのは、今では古い考え方、スタイルになってきました。今、社会では会社や就職に対する考え方、ワーク・ライフ・バランスも大きく変化しています。現役のビジネスパーソンから話を聞くことは、学生のキャリアデザイン、キャリアパスにおいて非常に参考になると思うので、滋賀大学が多数連携する企業や官公庁、自治体のネットワークも活かして、積極的に数多く開催していく予定です。「未来創生大学『滋賀大学』」においても、アントレプレナーシップは重要項目であり、プログラムの充実、学生への喚起をいっそう図っていきます。高い創造意欲、リスクに対して積極的に挑戦していく起業マインドは、起業のみならず、一般企業への就職や教員をめざす学生にも、就活や資格試験、その後の働き方にもプラスになるはずです。起業に関しては、「滋賀大学発ベンチャー認定制度」※6も導入しています。



谷村 真菜
経済学部 4回生
膳所高校 (滋賀県)

高槻 教育学部といえば将来は教員というイメージだったので、滋賀大学発認定ベンチャー企業の第一号が教育学部の先輩ということを知り、驚きました。学部は関係なく、可能性が広がっていくのですね。

社会から真に求められる 専門性×多様性

竹村 大学は、学問継承や文化継承を行うアカデミックな教育機関であると同時に、大学での学びを社会でどう活かすのかという実学も重要です。滋賀大学は創設から140余年にわたり、社会に貢献できる職業人、教育者の育成を使命とし、実学にも注力し続けてきました。それは今も変わりません。実学を並行しなくては、社会から大学に要請される能力は養えないでしょう。未来創生リベラルアーツでも、学部での専門科目でも、アクティブ・ラーニング※7やPBL型※8プログラム、インターンシップなどをいっそう増やしていきます。

近藤 自分の将来を具体的に思い描き、実学を通じて実社会に役立つことを修得することは、卒業後の大きなアドバンテージとなり、即戦力ともなるのではないのでしょうか。

高槻 高校時代までの受け身の授業、正解のある授業とは異なり、答えのない課題に対して納得解をどれだけ探究できるのかという学びを求められていると感じています。そのためにはリベラルアーツやアクティブ・ラーニングにおいて、多岐にわたる知識と思考力を養わなければいけない、とも。

竹村 最後に近藤さんから、社会、企業のお立場からの滋賀大学への期待をお聞かせください。

近藤 データサイエンスの社会、企業での



座談会は、彦根キャンパスに誕生した「滋賀大学大学院Future Class Room」で実施。竹村学長による電子ペンのデモンストレーションも

導入・活用は進みつつありますが、データサイエンティストなどの専門能力を持つ人材や技術の整備はまだ十分ではありません。だからこそ、専門の頭脳、人材が集まった大学との連携は企業にとってスピード、コストなどいろいろな点を考慮し、ベストな選択だと思っています。

竹村 本学との連携企業・自治体は年々増加する一方です。

近藤 私が在籍していたあいおいニッセイ同和損保も、早くから滋賀大学と提携し共同研究に取り組んでいます。保険業界だけでなく、企業や官公庁、自治体は莫大な量のデータを保有しており、活用のアイデア、可能性は無限大です。大学側はリアルで貴重なビッグデータを基に、これまでになかった研究、価値創造を行うことができ、産官学連携による相乗効果は計り知れま

せん。滋賀大学の「未来創生リベラルアーツ」は、社会や企業が求める人材育成に非常にマッチしていると思いますし、より秀でた学生を数多く輩出してくださることに期待しています。

谷村 私たち学生は身につけなければならない素養が数多くありますが、竹村学長のお話を聞いて、滋賀大学ならそれらをしっかりと学べて、社会、企業から求められる人間に成長できると思いました。

竹村 滋賀大学は、各学部で高い専門性を追究し、自身の強み、得意分野にできることはもちろん、「未来創生リベラルアーツ」において、これからの社会に柔軟に適應できる広範囲な力を獲得できます。私はより充実した体制、環境の整備と学生の夢、目標の実現を使命とし、全力を尽くしていきます。

近藤 智子 氏

滋賀大学監事

早稲田大学法学部卒。千代田火災海上保険株式会社入社(現、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社)、再保険部長、理事総務部長、執行役員、MS&ADインシュアランスグループホールディングスの常勤監査役を歴任し退任。2022年3月滋賀大学監事に就任。

※5

アントレプレナーシップ

創造力、論理的思考力、コミュニケーション力、コラボレーション力の4つのスキルをさまざまなジャンルの実務経験豊富な講師陣から実践的な講義を通して体得し、実際の企業の課題抽出・解決策を考える授業。

※6

滋賀大学発ベンチャー 認定制度

地域経済や社会への貢献を目的に創設。本学の研究から生まれた技術やビジネス手法を用いるなど、要件を満たして事業化した企業を認定し、認定企業には本学施設・設備の利用、本学職員への相談といった支援を用意している。

※7

アクティブ・ラーニング

教員による一方的な講義形式ではなく、学生の能動的な参加を取り入れた学びの総称で、汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習などのほか、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワークといった方法がある。

※8

PBL型 (Problem-based Learning)

問題解決型学習、課題解決型学習と呼ばれる、アクティブ・ラーニングの一種。自ら問題、課題を見つけ、その解決の過程で知識や経験を得る学習方法のこと。



高槻官汰
教育学部 2回生
虎姫高校 (滋賀県)

